

## 立毛間播種により大豆・小麦3年5作栽培をする際の雑草管理の要点

水田転換畑における大豆・小麦立毛間播種栽培では、2作目小麦の雑草量が3作目以降の雑草量に大きく影響します。3年5作期間中において、小麦茎立後や小麦収穫前(大豆播種直前)の中耕、大豆栽培時に非選択性茎葉処理除草剤の畦間散布を組み合わせることにより雑草発生が抑えられます。

1作目大豆	2作目小麦	3作目大豆	4作目小麦	5作目大豆
条間75cm 株間20cm、2粒播 基肥N2kg/10a	条間75cm 播種量 4 kg/10a 基肥N3、追肥N4kg	条間75cm 株間20cm、2粒播 基肥N2kg/10a	条間75cm 播種量 5 kg/10a 基肥N3、追肥N4kg	条間75cm 株間20cm、2粒播 基肥N2kg/10a
収量：365kg/10a	収量：296kg/10a	収量：261kg/10a	収量：376kg/10a	収量：237kg/10a
10月上旬	6月下旬	10月下旬	7月上旬	

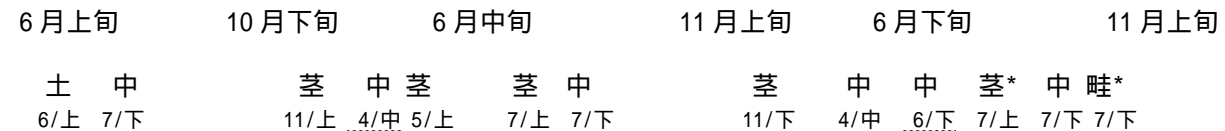


図1 水田転換畑における大豆・小麦立毛間播種3年5作栽培の管理内容(2002~2004年)

注) : 播種期、 : 収穫期、土: 土壌処理除草剤(ガリ水中和剤)散布、茎: 茎葉処理除草剤(アザノール乳剤、バサガ液剤)散布、畦: 非選択性茎葉処理除草剤(ハビ-液剤)の畦間散布、中: 中耕。\*印はどちらかを選択。

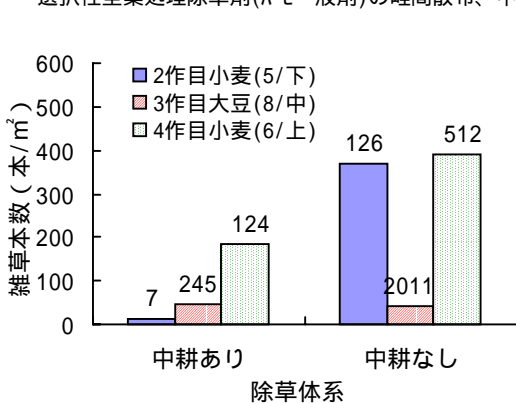


図2 2作目小麦の茎立後中耕の有無とその後の雑草発生量の比較

注) 棒グラフ上の数値は雑草生体重(g/m²)を示す。凡例の( )内は調査月旬を示す。

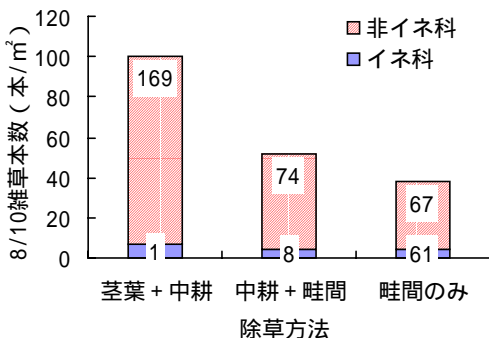


図4 大豆栽培時の除草方法と雑草発生量(5作目)

注) 棒グラフ中の数値は雑草生体重(g/m²)。茎葉: 茎葉処理除草剤散布、畦間: 非選択性茎葉処理除草剤の畦間散布。

担当研究室 園芸畑作部 野菜畑作研究室 研究室  
〒024-0003 北上市成田 20-1

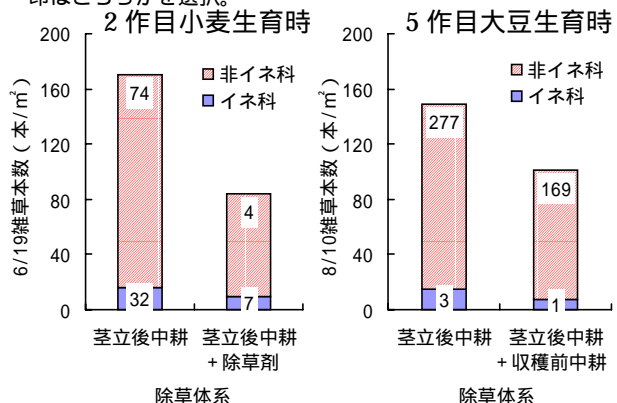


図3 小麦栽培時の除草体系と雑草発生量の比較

注) 棒グラフ中の数値は雑草生体重(g/m²)。X軸は小麦栽培時の除草体系で、左のグラフは2作目小麦の、右のグラフは4作目小麦の除草体系である。

2作目小麦の特に越冬後の雑草管理は、その後作の雑草量に影響します。2作目小麦で茎立後の中耕を実施しないと雑草量が多くなり、その後大豆作、小麦作での雑草量が極端に高まります。小麦作の越冬後の雑草管理において、茎立後の中耕のみでは十分な除草効果は得られません。茎立後中耕に加えて、茎葉処理除草剤の散布が小麦収穫前(大豆播種直前)の中耕の実施により雑草量は減少します。雑草発生量が多くなる5作目大豆では、中耕後に非選択性茎葉処理除草剤の畦間散布が有効です。